「２１世紀環境共生型住宅のモデル整備による建設促進事業」における勉強会

【講師･講義内容･質疑の内容･普及に果たした役割】

第1回勉強会（6月30日実施）

○講師及び講義内容

テーマ ：「自立循環型住宅設計講習会」

･自立循環型住宅の定義
･自立循環型住宅の設計プロセス
･日射熱利用
･断熱外皮計画
･日射遮蔽

講 師 ： 独立行政法人建築研究所環境研究グループ
専門研究員 齋 藤 宏 昭 先生

テーマ ：「自立循環型住宅設計講習会」

･自然風の利用
･昼光利用
･太陽光発電
･日射熱利用
･換気設備計画
･照明設備計画
･水と生ゴミの処理と効率的利用

講 師 ： 早稲田大学理工学術院総合研究所
客員研究員 田 島 昌 樹 先生

テーマ ：「自立循環型住宅設計講習会」

･太陽熱給湯
･暖冷房設備計画
･給湯設備計画
･高効率家電機器の導入
･ケーススタディー
･省エネルギー効果及びコストの推計

講 師 ： 独立行政法人建築研究所環境研究グループ
上席研究員 桑 沢 保 夫 先生

○質疑の内容

参加者の大半が、今回のガイドラインの講義を始めて受講されたことから、質疑は特に無かった。

第2回勉強会（7月3日実施）

○講師及び講義内容

テーマ ：「ドイツから学び矢板市で実践するバウビオロギーによる住まいづくり」

講 師 ： 前橋工科大学 准教授 石 川 恒 夫 先生

テーマ ：「良好な室内空気質を確保するエコマテリアルと換気の重要性」

講 師 ： 有限会社 ひと・環境計画 代表取締役 濱 田 ゆかり 先生

○質疑の内容

・超薄型反射遮熱材（サーモ・プロテクト）についての質問があった。（石川先生）

・マイナスイオンについての質問があった。（濱田先生）

○講師及び講義内容

第3回勉強会（7月17日実施）

視 察 ： 市内の間伐材伐採現場

講 師 ： たかはら森林組合 参事兼総務課長 小 川 修 市 氏

視 察 ： 矢板共販所

講 師 ： 高原林業地区協業センター 所長 福 田 成 芳 氏

視 察 ： （株）トーセン本社工場

講 師 ： 株式会社トーセン 代表取締役社長 東 泉 清 寿 氏

テーマ ：「地場産材の活用と実践例（地産地消）」

講 師 ： 一級建築士事務所 長谷川敬アトリエ 代表 長谷川敬 先生

○質疑の内容

・間伐材の切り出しは通年を通じて行っているのか（小川先生）

・設計業者が木材を仕入れることは可能か（福田先生）

○勉強会が本事業の目的の一つの普及に果たした役割

この勉強会を開催したところ、県内から50名を超える参加者があり、エコに関する関心が高いことに気づきました。勉強会に参加された方々も、設計ガイドラインの存在や、13のエコ技術、間伐材の伐採現場、木材の共販所など、初めて目にした方が多かったようです。

勉強会に参加したある設計者の方は、今回の勉強会は非常に勉強になり、今後の設計に是非役立てたいと思います。と話をされていた方もおり、エコ・環境に関心を持たれた方が増えたのではないかと思います。このように、設計者がエコ技術を身につけることで、住宅を建てる施主への説明がスムーズに行え、エコハウスの普及促進に繋がると思われます。この勉強会が今回だけに止まらず、今後も、情報の提供や、勉強会を定期的に開催する必要性を感じております。

何れにいたしましても、今回の勉強会を通じて、勉強された設計者が、矢板市の風土や環境を理解され、矢板にあったエコ技術を用いた、技術提案が14件提出されたことは、本事業の目的の一つの普及に果たした役割は非常に大きいものがあると考えております。